

事務事業名	可燃ごみ収集運搬業務委託事業	整理番号	34102-020
所 管	環境課廃棄物管理事務所		

事務事業の位置付け

期間	平成10年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 3-4 資源循環型社会の構築 政 策 3-4-1 適正な廃棄物処理とリサイクルの推進	関連政策	

事務事業の内容

目的 (何のために)	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、可燃ごみの適正な収集、運搬業務に関し、民間活力の活用を図り、合せて増大するごみ量に柔軟な対応ができる体制を確立する。
対 象 (誰・何を)	一般廃棄物収集許可業者。
手 段 (どのようなやり方で)	可燃ごみを集積所から収集、処理施設へ運搬することを許可業者に委託する。
成 果 (どのような状態にしたいか)	適正なごみ収集業務、排出指導体制の確立を図る。
事務事業の背景・住民の意向	各処理施設の安全、安定的な稼働及び生活環境における衛生上、美観上の観点から午前中の収集体制を継続。
見直し改善の経過	平成10年度から一部委託を開始以来、市内のほぼ全域の委託化をした。

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)												
平成16年度	可燃物5コースの委託(委託化率 96%)	<table border="1"> <caption>投入コスト(千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>直接経費(上段)</th> <th>人件費(下段)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>約65,000</td> <td>約20,000</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>約65,000</td> <td>約20,000</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>約65,000</td> <td>約20,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	直接経費(上段)	人件費(下段)	16年度	約65,000	約20,000	17年度	約65,000	約20,000	18年度	約65,000	約20,000
年度	直接経費(上段)		人件費(下段)											
16年度	約65,000		約20,000											
17年度	約65,000	約20,000												
18年度	約65,000	約20,000												
平成17年度	可燃物4コースの委託(委託化率 96%)													
平成18年度	可燃物4コースの委託(委託化率 96%)													

評価指標

市民一人あたりの収集経費(円/人)	1トあたり収集コスト(円/トン)	収集車1台1時間あたり収集運搬量(トン/台・時間)																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収集経費(円/人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>約780</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>約760</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>約750</td> </tr> <tr> <td>H19目標</td> <td>約730</td> </tr> </tbody> </table>	年度	収集経費(円/人)	H16	約780	H17	約760	H18	約750	H19目標	約730	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収集コスト(円/トン)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>約5,300</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>約5,100</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>約4,900</td> </tr> <tr> <td>H19目標</td> <td>約4,700</td> </tr> </tbody> </table>	年度	収集コスト(円/トン)	H16	約5,300	H17	約5,100	H18	約4,900	H19目標	約4,700	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収集運搬量(トン/台・時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>約350</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>約360</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>約370</td> </tr> <tr> <td>H19目標</td> <td>約380</td> </tr> </tbody> </table>	年度	収集運搬量(トン/台・時間)	H16	約350	H17	約360	H18	約370	H19目標	約380
年度	収集経費(円/人)																															
H16	約780																															
H17	約760																															
H18	約750																															
H19目標	約730																															
年度	収集コスト(円/トン)																															
H16	約5,300																															
H17	約5,100																															
H18	約4,900																															
H19目標	約4,700																															
年度	収集運搬量(トン/台・時間)																															
H16	約350																															
H17	約360																															
H18	約370																															
H19目標	約380																															

事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	今後の方向性
観点別評価	必要性	ごみ量増加の中で、直営分(4%)について、その必要性を再検討する必要がある。	拡大
	有効性		
	効率性		
一次評価	B		
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	今後の方向性
二次評価	B	収集作業の完全委託化に向け検討されたい。	継続

改革プラン

平成19年度からの対応	平成20年度の可燃ごみの収集委託業務を完全委託化に向け検討し予算化する。また不燃ごみ収集業務についても一部委託か完全委託化を検討する。
平成20年度以降の対応	不燃ごみ収集委託業務の完全委託化に向けて検討する。
改革により予想される成果	人員の削減